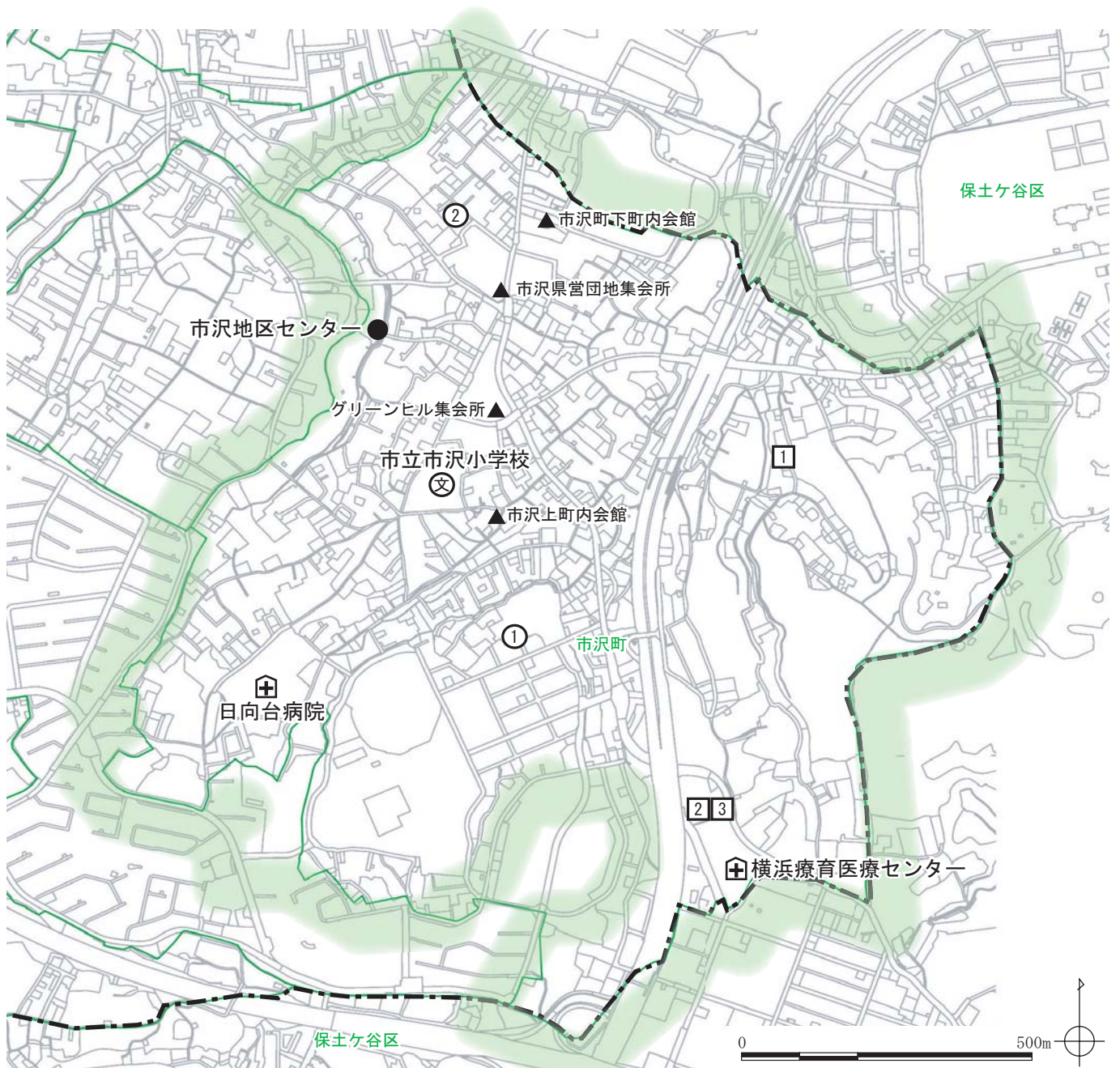


市沢地区



市沢地区は、旭区の南東に位置する丘陵地です。南北に環状2号線が通り、住宅地と農地・樹林地に土地利用が分かれています。



実際の地区範囲は、町・丁目単位とは限らず地図上に正確に表すことは困難なため、およその範囲で表現しています。地域の状況を把握するための参考データとしてお取り扱い下さい。

背景図：横浜市都市計画基礎調査

地区担当：左近山地域ケアプラザ

地域の福祉保健施設

子ども

保育園

① マヤ保育園

放課後児童クラブ(学童保育)

② 市沢学童クラブ

障害

身体障害者・知的障害者
地域作業所

□ もみの木第1作業所

障害福祉サービス事業所
(日中活動)

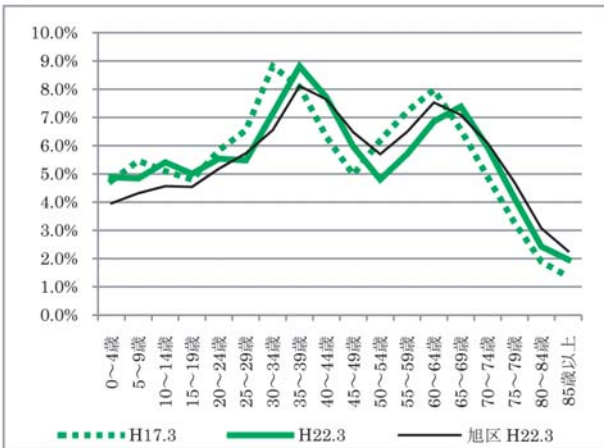
② 第一空とぶくじら社

③ 第二空とぶくじら社

【地区周辺の地形】



【総人口に対する5歳階級別人口の割合】



※人口データは町丁目単位までしか集計されていないため、一つの町丁目が複数の地区にまたがっている場合は、所属面積の大きい地区に含めて作成しています。そのため、グラフと表は市沢町だけの数字となります。したがって、上記データは地域の概況を把握するための参考としてお取り扱い下さい。

地区データに見る特徴

- ・陣ヶ下溪谷（保土ヶ谷区）を形づくる谷の源流域にあたります。
- ・年齢分布は旭区全体の分布とよく似ていますが、30歳代までが若干多く、50～60歳代にかけて若干少ない、比較的若い地区です。
- ・総世帯数は7.7%の伸びを示し、総人口も4.5%増加しています。
- ・人口構成別に見ると、年少人口は3.2%の増加、生産年齢人口は1.3%の減少に対して、高齢者人口は27.1%増加しています。
- ・総じて、流入が少ない地区であると想像されます。

【世帯数及び人口】

	H17.3 (総数比)	H22.3 (総数比)	H17-22 増減比率
総世帯数	3,541 世帯	3,814 世帯	+7.7%
総人口	8,528 人	8,911 人	+4.5%
0～14歳 (内、0～6歳)	1,306 人 (15.3%) 593 人 (7.0%)	1,348 人 (15.1%) 603 人 (6.8%)	+3.2% +1.7%
15～64歳	5,689 人 (66.7%)	5,615 人 (63.0%)	-1.3%
65歳以上	1,533 人 (18.0%)	1,948 人 (21.9%)	+27.1%

住民基本台帳及び外国人登録人口合計（市沢町）

市沢地区の活動情報

（平成22年9月末現在）

子育て地域サロン

「市沢ふれあい広場」

毎月第1木曜日（1月、8月休み）
時間：10:00～11:30
場所：ふれあいホール
（熊野神社境内）

親子で気軽に集い、交流する場です。



食事サービス

「市沢よろこびの会」

毎月1回
時間：12:00～2時間程度
場所：市沢下町会館・上町会館

高齢者等を対象に、給食会などを行っています。



「市沢フェスタ」

毎年10月末に近い土曜日
場所：市沢小学校

午前には学校主催による学習成果の発表、午後には地域の人たちと子どもたちのふれあい祭りを行っています。



「市沢健康クラブ」

毎月第3水曜日
時間：13:30～15:30
場所：市沢地区内会館利用

健康増進を図るために身体運動、指先から能力活性化歩行などを行っています。



- ・地域には他にも様々な活動があります
- ・活動についてのお問合せは、
左近山地域ケアプラザ
旭区社会福祉協議会
へお気軽にどうぞ。

これまでの活動の目標と方向性

安心感のある地域づくりを進める

【取組を進めるにあたり、特に大切にしたい点】

地域にどんな人が住んでいるか知り合うところから関係づくりを進めていくことが、世話役を育むことにつながります。

また、顔の見える関係があれば、いざというときの安心感も得られ、地域を大切に思う気持ちも自然に生まれてきます。

【具体的な取り組みの方向性】

男性料理教室などを開催し、地域のボランティアなどの発掘・育成をします。

取り組みの目標テーマと活動の振り返り

● 安心感のある地域づくりを進める

- ・ 男性料理教室（現：ニコニコ料理教室）は、定着した活動となっている。
- ・ 町内会の加入率などを見ると、目標テーマにある、顔の見える関係をつくり、そこに住んでいる安心感を育むということができていない。



(ニコニコ料理教室)

● 地域と施設との交流・協働を進める

- ・ 障害者地域作業所のもみの木と地域の交流が図られている。



(もみの木作業所との交流
：もみの木まつり)

● “市沢らしさ”の香る生活環境を守り活かす

- ・ 第1期に立ち上げた男性料理教室（現：ニコニコ料理教室）は、4年続いている。メンバーの中には高齢者給食ボランティアの会「よろこびの会」に入り協力している人や地区センター祭りの餅つきの際ボランティアとして活躍している人もいる。
- ・ 他にはボランティア数人が市沢小学校で始業10分前の読み聞かせをしており、特に紙芝居は「紙芝居のおじさん」として親しまれている。
- ・ 「市沢ふれあい広場」「市沢健康クラブ」「市沢フェスタ」については、市沢らしい活動として軌道に乗っているが、担い手が高齢化しており、世代交代が課題である。



(市沢健康クラブ)



(市沢ふれあい広場)

地区での検討

- ・今ある、地域に定着している活動をスケールアップしてはどうか。
- ・顔の見える関係づくりが必要である。
- ・地区に活気を取り戻したい。
- ・災害時の地域の支えあい支援を進めることで、「顔の見える関係づくり」ができてくるのではないか。
- ・具体的な取り組みについては、課題別にプロジェクトチームを設置し検討する必要がある。



(計画検討の様子)

地区の強みと課題

地域の強み

- ・市沢地区らしい取り組みが根づいてきている。

課題

- ・自治会・町内会の加入率が低下しており、未加入者への情報提供が難しくなっている。災害時の対応もあり、「顔の見える関係づくり」が必要である。
- ・定着している取り組みの後継者や担い手が不足している。

計画の目標

災害に強い、安心感のあるまちづくり・顔の見える関係づくり

具体的な活動の取り組み

- **安全・安心のまちづくり**
 - ・安全・安心カード作成を通じ、災害時に地域で支えあう仕組みとしての「顔の見える関係づくり」
 - ・災害時ボランティアの育成、組織化
- **地域の交流**
 - ・対象を小・中学生まで広げた子育て支援
 - ・地区内の障害者施設や医療機関等との協力体制の構築
 - ・自治会・町内会未加入者の加入促進、並びに、情報提供等の仕組みづくり
 - ・交流を目的とした料理教室の開催
 - ・市沢健康クラブなどの推進

計画の推進母体

市沢地区地域支えあいネットワーク

地区社会福祉協議会、自治会・町内会、民生委員・児童委員協議会、体育指導委員、青少年指導員、保健活動推進員、老人クラブ、ボランティアグループ、子育てグループ、学校PTA、子ども会、障害者施設（空とぶくじら社）、医療機関（日向台病院）、一般施設（旭スポーツセンター）の各代表